

「野鳥園臨港緑地干潟・湿地環境保全事業」平成 28 年度事業計画書

1 事業実施スケジュール

実施事業	平成 28 年 (2016 年)									平成 29 年 (2017 年)			計
	4 月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
(1) 干潟・湿地の保全・再生													
環境調査													
① 鳥類調査	4	4			4	4	2		1	1	1	2	23
② 底生生物調査				1							1		2
③ 干潟現況調査				1							1		2
④ 湿地再生プロジェクト				1							1		2
湿地の手入れ（漂着ゴミ回収・除去、ヨシ刈り、野鳥や干潟の生き物の生息環境づくり）													
① 漂着ゴミ回収除去			1					1					2
② ヨシ刈り等				1								2	3
③ その他				1							1		2
(2) 環境学習													
① 野鳥のガイド	4	4	2	2	4	4	4	3	2	2	2	3	36
② 観察会・学習会		1	1	1	1	1				1		1	7
(3) 広報、啓発等	←	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→
(4) 催事	←	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→
(5) 事業実施の準備活動	←	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	→

2 本年度の事業目標

(1) 渡り鳥が多く利用する野鳥園の存在を知ってもらうための環境学習を企画実施し、市民利用施設としての機能充実を図る。

① 野鳥ガイドのフォローアップ研修と新たな人材発掘

昨年度から野鳥ガイドとなった人を対象に、野鳥の生態についてのフォローアップ研修を兼ねた勉強会と観察会を行うとともに、新たな野鳥ガイドの人材発掘を図る。

② 環境学習プログラムの実施（前年の企画内容を踏まえたプログラムの改訂）

野鳥だけでなく、干潟の生きもの、湿地環境の再生のことまで幅広いプログラムを体験的に学べる企画をたて、野鳥園湿地での生きものつながりをわかりやすく理解してもらう。前年同様に、夜間の生きもの観察会を実施し、様々な生きもの知られざる姿を楽しんでもらうプログラムを継続する。

野鳥園のことや渡り鳥のことを知らない人、近隣の学校の学生や教員を対象とした環境学習プログラムを企画・実施し、野鳥観察の市民利用施設をより多くの市民や学校の利用を促進する。

(2) 鳥類とくにシギ・チドリ類とそれを支える干潟の生きものにとって、生活しやすい環境を維持するために、生きものの視点から現環境の課題をあげ、順応的な手入れをどのようにすればいいかを検討する。

① シギ・チドリ類が、繁殖地へ北上する春（4～5月）と繁殖地から南下する秋（8～10

月)に、その好みの食性に応じて、シロチドリ、メダイチドリ、トウネン、ハマシギ、キアシシギ、アオアシシギ、チュウシャクシギなどが干潟をどのように利用し、何を食べているかを判断基準として、手入れすべき環境エリアを把握する。

- ② 野鳥園に渡来する小型のシギ・チドリ類の休み場や餌場を人工的につくることによって、多様な環境を再創造する(たとえば、カキ山、丸太の休み場、岩場、熟成した落ち葉の投入、南池水門の開放による干出面積拡大と南池を覆う藻類の一部除去など)。
- ③ 「湿地再生プロジェクトチーム」の年2回の会議と意見交換で、湿地が抱える課題とその解消に向けての方策を検討する。構成メンバー(各分野の専門家、NPO 法人南港ウェットランドグループ、および大阪市)は、会議で調査結果に基づく現状と課題を発表し、課題解決への対策に関する意見交換を行い、取組を試行的に実施する。

3 事業実施計画

(1) 干潟・湿地の保全・再生

【環境調査】

① 鳥類調査

(実施時期) 2016年4月～2017年4月(計23回)

(調査方法) 展望塔と北観察所を拠点に1日を通しての個体数の変化(種別最大渡来数の記録)、干潟・湿地の利用状況、採食行動などを調査シートに記録する。

(調査要員) 1～2名

(その他) 大阪府一斉ガンカモ調査(1月)、環境省調査(モニタリングサイト1000)への情報提供

② 底生生物調査

(実施時期) 2016年7月および2017年2月(2回)

(調査方法) 底生生物の生息分布状況を調査し、後日、採取標本を同定する。

(調査要員) 2名以上

③ 干潟現況調査

(実施時期) 底生生物調査時(鳥類調査時には干出状況を記録)

(調査方法) 底生生物の調査と並行して実施する。底質(固さ、酸化還元状態、表面の有機物堆積層の状況)、水の流れ(滞筋の状況、導水管と捨石護岸からの水の出入り)などを過去と比べ、環境の状況を記録・写真撮影する。

(調査要員) 2名以上

④ 湿地再生プロジェクトチームによる湿地環境改善策の協議

(実施時期) 年2回(野鳥園で実施)

(実施内容) 湿地再生プロジェクトチームの実施。特に平成28年度は落ち葉投入による湿地環境改善について大阪市立大学、大阪市と連携して実施。

(対象要員) 大阪市立大学、NPO 法人、大阪市など

(目 標) 最終的には、湿地再生プロジェクトチームの構成員だけでなく、市民と一緒に参加して様々な手入れを行うこととする。そのことによって、多くの市民に野鳥園の湿地が、渡り鳥とくにシギ・チドリ類にどれだけ大切かを身近に感じてもらい、将来にわたって市民と共に野鳥園の湿地を保全することになげたい。

【湿地の手入れ（湿地の清掃、ヨシ刈り、野鳥や干潟の生きもの生息環境づくりなど）】

① 漂着ゴミの回収と除去作業

(実施時期) 6月、11月、およびヨシ刈り時

(実施方法) 干潟・湿地への漂着ゴミ等の状況と野鳥への影響が少ない時期をみて、市民との協働でゴミ除去作業を実施する。

(実施要員) 3～5名

CSR を活用（ボランティア約 100～200 人）

② 除草（ヨシ刈り等）

(実施時期) 随時（春と秋の渡り時期前に実施）

(実施方法) 展望塔から野鳥を観察しやすいように、シギ・チドリ類の渡来時期の前に、干潟・湿地の生きもの生息環境に配慮しながらヨシ刈りを実施する。

(実施要員) 2～4名

③ 導水管の点検

(実施時期) 3月（干潟現況調査とあわせて実施）

(実施要員) 2～4名

④ 野鳥や干潟の生きもの生息環境づくり

(実施時期) 夏季または冬季

(実施要員) 3～6名（危険でない作業は市民参加も呼びかける）

(2) **環境学習**

① 野鳥ガイド

(実施時期) 原則として日曜（10時～15時、昼休憩1時間）に実施（年間36回）。
（但し、ガイド時間は干潮時刻の状況により若干変更する）

(実施方法) 野鳥ガイドが、20倍以上の観察器具（望遠鏡）を使用して、野鳥園の展望塔や北観察所から見える様々な野鳥について来園者や団体に説明する。

(実施要員) 2名以上

② 野鳥の観察会および環境学習会

ア 野鳥の観察会

(実施内容) 春と秋に渡り鳥が渡来する時期に、シギ・チドリ類や林の野鳥をじっくりと

観察してもらう。

(実施時期) 5月のバードウィーク(5月15日)に1回、8～9月に1回

(実施要員) 参加者により可変(4名以上)

イ 夏の夜のアカテガニ観察会の実施

(実施内容) 夏の大潮の時期、園内の林から池に仔を放つためにやってくるアカテガニの観察を行う。(対象: 市民だけでなく、大阪市内の教員にも呼びかけ)

(実施時期) 7または8月

(実施要員) 4名

ウ 冬の夜のカモ類観察会の実施

(実施内容) 日没前後に、園内の池に帰ってくるカモ類の観察を行うと同時に、冬の星座の観察会を、日本野鳥の会大阪支部との共催で実施する。

(実施時期) 2017年1月末

(実施要員) 4名

エ 干潟の生きもの観察会

(実施内容) ハクセンシオマネキ、ヨコエビ類、貝類などの野鳥園の干潟の生きもの観察を行う。

(実施時期) 6月～7月

(実施要員) 4名

オ 植物観察会

(実施内容) 南港の植物調査グループとの連携で、野鳥園の林の植物や樹木の観察を行う。

(実施時期) 6月(予定)

(実施要員) 5名

カ 野鳥の会大阪支部の定例探鳥会との連携

(実施内容) 日本野鳥の会大阪支部の南港野鳥園定例探鳥会のサポートを行う。

(実施時期) 毎月第4日曜日

(実施要員) 2名以上

キ 勉強会(湿地での様々な生きものの生活がテーマ)

(実施内容) 対象者の範囲を広げたテーマでの勉強会。野鳥ガイドのフォローアップ研修や新規ガイド養成も目的とする内容とする。

(実施時期) 冬期

(実施要員) 3名

ク 調査協力(大阪湾生き物一斉調査)

(実施内容) 大阪湾環境再生連絡会が主催する大阪湾生き物一斉調査に協力し、干潟の生

き物の種類を調査する。

(実施時期) 6月

(実施要員) 1名

(3) 広報、啓発等

① 野鳥園のホームページやブログによる広報・啓発

- ・最新の野鳥飛来状況
- ・野鳥ガイド実施日の告知
- ・各種観察会や勉強会の開催日や申し込み方法の告知
- ・環境保全のための作業日の告知とその報告
- ・毎月のトピック情報はブログから配信

② 展望塔内の展示スペースを活用した来園者への広報・啓発

- ・シギ・チドリ類などの渡り鳥のこと、野鳥園の干潟・湿地の環境、干潟の生きものなどをわかりやすく知ることができるような掲示物や下敷きなどの作成。
- ・もう少し深く知りたい人のために、科学的な調査データをわかりやすく説明したポスターも掲示する。
- ・野鳥ガイド実施日／観察会の実施日の掲示（毎月）
- ・市民等が撮影した野鳥写真を季節に応じて掲示する。
- ・展望塔の机に、季節に応じたわかりやすい野鳥識別ガイドを掲示し、机上には野鳥園でみられる野鳥の下敷きを置く。

③ ホームページや展望塔内の掲示以外での情報提供

- ・各種観察会の開催日と内容、野鳥ガイドの常駐日などの情報を広く告知するために、展望塔内にチラシを置くか、野鳥ガイドにチラシを配布してもらう。

(4) トータルコーディネイト

トータルコーディネイターが下記の3業務を分担実施することにより、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、干潟を含む湿地環境の保全ができるようにする。

① 設計業務（下記4項目）

- ・野鳥ガイドの研修と養成：野鳥ガイド担当者の研修や新たなガイド養成
- ・環境学習：野鳥及び生きもの観察会などの設計／来園者が野鳥園の環境や野鳥のことを学べる広報・啓発内容の設計
- ・環境調査 A（鳥類調査）の設計及び調査結果に基づく野鳥生息環境の整備の設計
- ・環境調査 B（底生生物と干潟現況調査）の設計及び調査結果に基づく湿地手入れの設計

いずれの事業も、内容、日程、適切な人材配置を行い、各事業の実施経過や内容から、改善すべき点などをコーディネイター間で随時協議し検討する。

② 調整系業務（下記2項目）

- ・大阪市との定例会議（月 1 回）及びメール等（随時）での事業内容や予定の報告／連絡／協議。
- ・湿地再生プロジェクトチーム（大阪市立大学、大阪市、NPO 南港ウェットランドグループ）による会議（年 2 回）で、湿地の現況を報告し、それに基づき湿地環境保全対策の協議を実施する。

③ 総括系業務（下記 2 項目）

- ・事業計画書及び事業報告書の作成
- ・アドバイザーボードでの報告（年 2 回）

(5) 企業からの協力

- ・企業の協力のもと、企業や市民双方にとって有益で魅力あるイベントを検討する。

(6) 教員と学生対象の環境学習プログラムの準備活動

- ・生物多様性を言葉でなく実際に体験学習できる場である野鳥園を学校の環境教育に活用してもらえるように、市内中学校等の教員や学生を対象に、野鳥園を活用した環境学習会や施設見学会に向けた取り組みの企画を準備する。大阪市立築港中学校とは前年度に引き続いて湿地の生きものを調べるプログラムを企画する。

(7) NPO 法人南港ウェットランドグループと大阪市建設局の定例会議（毎月 1 回実施）

- ・前月の事業報告／今後の事業予定の報告。
- ・業者に業務委託されている植栽管理や除草などの予定などの確認。
- ・協働事業で行う内容とその進め方についての検討。
- ・今後の課題などの協議。

4 事業実施体制

(1) 要員配置

本事業を実施するにあたり、事業責任者 1 名、トータルコーディネイター 3 名を配置し、各事業実施には次のとおり要員を配置する。

要員配置にあたっては、関係団体等と連携し要員確保のうえ配置する。

事業責任者 1 名		
トータルコーディネイター 3 名		
実施事業	実施要員	備 考
(環境調査)		
①鳥類調査	1~2名	
②底生生物調査	2名以上	
③干潟現況調査	2名以上	
(湿地の手入れ) 一湿地の清掃、ヨシ刈り、野鳥および干潟の生き物の生息環境づくり		
①漂着ごみの回収と除去作業	3名以上	CSR を活用 (ボランティア約 100 人)
②湿地の手入れ (ヨシ刈り、野鳥および干潟の生き物の生息環境づくり等)	2名以上	危険でない作業は市民参加を呼びかける
(環境学習)		
①野鳥ガイド	2名以上	原則として日曜日
②環境学習 (野鳥、干潟の生き物、植物観察会など) 及び定例探鳥会	4名	毎月の定例探鳥会は、日本野鳥の会大阪支部等他団体と連携
(その他催事)	適宜	
(広報、啓発等)	適宜	
(事業実施に向けての準備活動)	4名	行政と連携

以上